

	<h1 style="text-align: center;">進取の気概</h1> <p style="text-align: center;">(校長室だより)</p>	<p style="text-align: center;">有田市立箕島中学校</p> <p style="text-align: center;">自主 友愛 剛健</p>	<p style="text-align: center;">R4・6・16</p> <p style="text-align: center;">No.18</p>
---	--	--	---

季節それぞれの風景や色、香りなどを意識して感じ、楽しむことができる心や生活がより豊かで潤いのあるものになります。みなさんにはそんな感性豊かな人になってほしいと願っています。そこで、今の季節の話を紹介します。

〈アジサイ〉赤、ピンク、紫、青、白など、正門を入ったところのアジサイがきれいです。アジサイの別名は「七変化」というそうです。その名の通り、アジサイは土の性質によって花の色が変わります。土が酸性だと青、アルカリ性だと赤くなります（リトマス紙の逆です）。

花の色はもとはアントシアニンという色素です。本来は赤っぽい色ですが、アルミニウムと結びつくと青く変わるそうです。酸性の土では、土の中の水分にアルミニウムが溶けやすく、それが根から吸収されて、アントシアニンと結びついて花の色が青くなるそうです。また、アジサイを用いたおまじないがあります。6月の6がつく日（6・16・26日）にアジサイを一輪、軒下につるす



と、厄除けや魔除けになるといわれています。また、アジサイをトイレにつるすと婦人病にかからないといわれています。アジサイは有毒の植物なので、アジサイの毒が病気をはねのけてくれると考えられていたのでしょう。

←箕中の正門を入ったところのアジサイ



〈ホタル〉ホタルが舞う季節（見頃は過ぎたかもしれませんが・・・）です。昔から人々の心をとらえてきたホタルの光は、結婚相手を見つけるためのサインです。他の生物にねらわれないよう夜に活動し、暗い中で相手に気づいてもらうために光ります。ホタルの多くの種類は成虫になると口が退化し、ほとんど水分しかとることができません。そのため、幼虫のときにたくわえた栄養を使って光ります。まさしく命を燃やしているという感じがします。暗闇の中、ふわりふわりと舞う光は幻想的（現実から離れて、まぼろしの世界を夢見ているようなさま）で、昔からこの光は死者の靈魂や心残りだと考えられていました。



ほう ほう ほたる来い あっちのみずは ながいぞ
こっちのみずは あまいぞ ほう ほう ほたる来い

水しか飲めなくなってしまうホタル、童謡「ほたるこい」では「こっちの水は甘いぞ」といってホタルを誘っています。